

大学のまち京都・学生のまち京都推進計画 2014-2018

大学・まち・学生 むすぶプラン



京都市・大学コンソーシアム京都



京都市長 門川 大作

「大学のまち・学生のまち」。多様な大学・短期大学が集積し、人口の約1割に相当する学生さんが学ぶ京都の重要な都市特性ですが、この特性の要素は学校や人の数の多さだけにとどまりません。

各大学・短期大学がそれぞれの個性をいかしながら、また、大学コンソーシアム京都を中心に相互に、あるいは産業界や地域と連携しながら、幅広い分野で意欲的な挑戦を重ねておられる。学生さんが机の上で勉強するのみならず積極的に地域にも飛び込み、生き生きと活動しておられる。その姿を、多くの市民の皆様が温かく見守り、応援しておられる…。

このように、大学で蓄積されてきた数々の知が社会的な課題の克服やまちの活性化に大いに貢献し、学問を志す若者がまち全体をキャンパスにして学び成長する、そんな貴い営みが活発に積み重ねられてきたからこそ京都は「大学のまち・学生のまち」なのだと思えます。

今、我が国の18歳人口の長期的な減少、国際的な大学間競争の激化など、大学・学生に関連する情勢は厳しさを増しつつあります。京都にとっても、そうした状況への対応は大きな課題です。しかし、ピンチはチャンス。困難な時にこそ京都ならではの強みを最大限に発揮し、明るい未来を切り拓くための大胆な政策を展開していくとの強い思いを込めて、この度、本計画を練り上げました。

今後、本計画を羅針盤として、本市と大学コンソーシアム京都が車の両輪となり、各大学、地域、産業界の皆様としっかりと連携し、知恵と力を結集して果敢に取組を進めてまいりたい決意です。世界中の学生や研究者の皆様「京都で学びたい」と夢見ていただけるまち、そして「京都で学んでよかった」と心から実感いただけるまちの実現に向け、どうぞ皆様の御支援、御協力をお願いいたします。

結びに、本計画策定に御尽力をいただきました、「大学のまち京都・学生のまち京都推進会議」及び同「計画策定専門部会」の委員の皆様をはじめとする関係者の皆様、貴重な御意見をお寄せ下さいました市民の皆様「心から御礼申し上げます」。

平成26年3月



公益財団法人 大学コンソーシアム京都 理事長 赤松 徹眞

京都は、市内を中心に数多くの大学・短期大学が集積し、人口147万人の約1割に当たる14万人の学生が学ぶ「大学のまち・学生のまち」です。その都市特性をいかすため、京都市と大学を中心とした産学公の連携により、平成6(1994)年に全国で初めての大学間連携組織である「京都・大学センター」として発足しました。現在は20年が経過し、50の大学・短期大学に加え、地方自治体・経済団体も参画する全国最大のコンソーシアム組織に発展いたしました。

高等教育の情勢では、18歳人口の長期的な減少や、グローバル化などを背景に知識基盤の形成に大学が果たすべき使命や大学の質向上、地域の核となる大学機能の構築が喫緊の課題となっており、大学を取り巻く環境は流動しております。

一方、京都では、前計画の推進期5年間の状況をもみても、大学生の総数については、横ばいであり、地元の入学者に比べて全国各地からの入学者数が相対的に多い状況です。また、留学生数も例年、増加傾向にあります。このことは、「大学のまち・学生のまち」京都が全国的・世界的に、注目されていることを示していると考えられます。

また、大学コンソーシアム京都でも平成26(2014)年度より新ステージを迎え、①京都地域における大学間連携事業の推進、②加盟大学・短期大学の教育の質向上の追求支援、③「大学都市」京都、地域の発展と活性化への貢献をすべく、大学振興に取り組んでまいります。

引き続き、この京都が「歴史」、「伝統」、「文化」、「芸術」、「ものづくり」、「観光」、「環境」などの観点とともに、大学の「知」や学生さんの「知性」、「情熱」を結集した「大学のまち・学生のまち」としても輝きを放ち続けるべく、京都市と本財団加盟大学・短期大学が丸となり、産業界、地域が本当の意味でオール京都一体となって、「京都に、大学があつてよかった」「京都に、学生さんがいてよかった」と言われるように取り組んでまいります。

結びに、本計画策定に御尽力を賜りました「大学のまち京都・学生のまち京都推進会議」及び計画策定専門部会の委員の皆様をはじめ、関係団体の皆様、市民の皆様に心から厚く御礼申し上げます。

平成26年3月

「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画 2014-2018」の概要

第1編 計画策定の趣旨など

<これまでの京都市と大学コンソーシアム京都の取組>

- 1 「大学のまち・京都21プラン」策定と大学コンソーシアム京都設立, キャンパスプラザ京都設置
- 2 「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」の策定・推進
- 3 大学コンソーシアム京都の取組(単位互換, 京カレッジ, インターンシップなど)

<計画策定の趣旨>

社会状況の変化や前計画の成果を踏まえ, 京都市と大学コンソーシアム京都が協働で策定

第2編 大学・学生を取り巻く状況と課題

<状況>

国内における18歳人口の長期的な減少やグローバル化に伴う国際的な大学間競争の激化により, 大学・学生を取り巻く状況が厳しさを増している

<課題>

- (1) **学生の学びを支える環境づくりの充実**
 - 大学の集積をいかした「大学のまち京都・学生のまち京都」としての更なる魅力づくり
 - 大学の個性化, 学びの環境の向上に向けた主体的な活動を支援する仕組みの充実
- (2) **大学・学生の国際化を促進する仕組みの充実**
 - 海外からの留学生誘致・支援を総合的に進める仕組みづくり
 - 京都で学ぶ学生が広く留学機会を得られる仕組みの充実
- (3) **学生の進路・就業への対応**
 - オール京都で学生の就業力を高める取組
 - 京都の大学で学んだ学生が京都で活躍できる仕組みづくり
- (4) **大学と産業・地域との連携の強化**
 - 大学と産業界・企業との連携・協働の強化
 - 大学と地域との連携を円滑にコーディネートする機能の強化
- (5) **学生の主体的活動の促進**
 - 学生の力をいかすことで学生の育ちと地域の活性化につながる仕組みの充実
 - 学生が大学の枠を越え, 主体的に活動できる環境づくり
- (6) **「大学のまち京都・学生のまち京都」の発信力の強化**
 - 「大学のまち京都・学生のまち京都」としての個性や魅力の再認識
 - 対象を意識した効果的な情報発信・PR

第3編 目指すべきビジョン

世界に誇る 「大学のまち」 「学生のまち」

～世界の学生・研究者から
選ばれる都市を実現～

ビジョンの具体的イメージ

- 1 京都で学ぶ魅力を実感できるまち
- 2 グローバルな視野を持った人財が集い, 育つまち
- 3 京都で学んだ学生がいきいきと活躍するまち
- 4 産学公地域連携による活力にあふれたまち
- 5 学生が主体的に活動し, 輝くまち

計画の推進

<計画推進組織>

京都市, 大学コンソーシアム京都, 大学, 学生, 企業, NPOなどからなる「大学のまち京都・学生のまち京都推進会議」による計画の進行管理

<計画推進期間>

平成26(2014)年度から5年間

第4編 施策の推進

1 学生が学ぶ環境の充実

- <リーディング施策> (1) 「量から質へ」単位互換科目の魅力の向上
(2) 「景観と機能の調和」大学施設整備の支援

- <推進施策> (1) 「安心して安全に学べる京都」の充実
(2) 学生が京都とふれあい、協働する環境づくり
(3) 大学経営・運営の支援
(4) 多様な大学・学生活動拠点の活用・設置の促進

2 大学・学生の国際化の促進

- <リーディング施策> (1) 「京都を知ろう」留学生誘致に向けた海外への広報
(2) 「京都に触れよう」大学のまち京都の魅力を体感できる短期留学受入の実施
(3) 「世界を見よう」京都で学ぶ学生の海外留学派遣の強化

- <推進施策> (1) 留学生支援機能の強化
(2) 留学生などに住み良いまちづくり
(3) 留学生の進路・社会進出の支援
(4) 大学職員の国際化の支援
(5) 海外との学術教育研究の交流促進

3 学生の進路・社会進出の支援

- <リーディング施策> (1) 「未来の京都を担う」京都企業と連携した人財育成
(2) 「京都で働く」京都企業と学生のマッチングの促進

- <推進施策> (1) 大学卒業後の多様な選択肢を描ける人財育成の推進
(2) ニーズに対応した就業マッチングの促進
(3) 進路カバーアップの推進

4 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化

- <リーディング施策> (1) 「京都発イノベーション」大学との連携によるものづくり技術の継承・発展
(2) 「飛び出す大学」大学と地域の連携・コーディネートの一環の充実

- <推進施策> (1) 産学公の連携による京都経済の活性化
(2) 教育・研究分野の新展開を目指す大学との連携強化
(3) 地学公の連携による地域課題への対応
(4) 小中高大(院)連携の推進
(5) 大学をいかした芸術文化環境の向上

5 学生が持つエネルギーをいかした京都力の強化

- <リーディング施策> (1) 「一人一人が輝く」学生の主体的活動の促進

- <推進施策> (1) 学生の活動を促進する仕組みの充実
(2) テーマごとの学生の活動の促進



6 プロモーション戦略の強化

- <リーディング施策> (1) 「京都の大学へ行こう！」学生の力を活用した国内外への情報発信
(2) 「大学のまち京都・学生のまち京都」PR戦略の構築

- <推進施策> (1) 「大学のまち京都・学生のまち京都」の中学生・高校生などへの発信
(2) 現役・OBの学生・留学生などによる京都生活の発信
(3) 大学・市民向け広報の充実

目次

第1編 計画策定の趣旨など

- 1 これまでの京都市・大学コンソーシアム京都の取組…………… 1
- 2 計画策定の趣旨…………… 3
- 3 計画の位置づけ…………… 4
- 4 計画の推進に向けて…………… 5

第2編 大学・学生を取り巻く状況と課題

- 1 大学・学生を取り巻く状況…………… 6
- 2 今後の課題…………… 8

第3編 目指すべきビジョン…………… 11

第4編 施策の推進

- 1 学生が学ぶ環境の充実…………… 13
- 2 大学・学生の国際化の促進…………… 17
- 3 学生の進路・社会進出の支援…………… 22
- 4 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化…………… 25
- 5 学生が持つエネルギーをいかした京都力の強化…………… 31
- 6 プロモーション戦略の強化…………… 34

■ 資料編…………… 37

第1編 計画策定の趣旨など

1 これまでの京都市・大学コンソーシアム京都の取組

(1) 「大学のまち・京都21プラン」の策定と大学コンソーシアム京都の設立、

キャンパスプラザ京都の設置

昭和50年代後半、京都市は、相次ぐ市外への大学転出の動きの中で、大学振興を市政の重要な柱の一つと位置付け、昭和60(1985)年に大学問題対策委員会を設置。さらに、21世紀に向けた「大学のまち・京都」のビジョンを示し、大学と地域の総合的な発展を図るため、平成5(1993)年に、「大学のまち・京都21プラン」(以下「21プラン」という。)を策定しました。

21プランに基づき、平成6(1994)年に全国で初めての大学間連携組織である「京都・大学センター」が設立され、平成10(1998)年には、産学公連携のもと、我が国で初めての大学コンソーシアムである「財団法人大学コンソーシアム京都」(平成22年に公益財団法人へ移行。以下「大学コンソーシアム京都」という。)が設立されました。また、平成12(2000)年には、大学

相互間及び大学と産業界、地域社会などの間の連携及び交流を促進する活動拠点として、京都駅前に「京都市大学のまち交流センター(キャンパスプラザ京都)」を建設するなど、「大学のまち」として他都市に例を見ない先進的な取組を進めました。

平成16(2004)年には、21プランの後継計画として、「大学のまち・わくわく京都推進計画」(計画期間 平成16[2004]年度から平成25[2013]年度まで)を策定。大学・学生、大学コンソーシアム京都、地域・市民、産業界・企業、行政がそれぞれの役割を果たしながら、連携して取り組むべき事業を示し、推進してきました。

(2) 「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」の策定・推進

平成21(2009)年、京都市と大学コンソーシアム京都は協働で、「大学のまち・わくわく京都推進計画」を一新し、「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」(計画期間 平成21[2009]年度から平成25[2013]年度まで)を策定しました。この計画では「大学のまち」の推進から、学生がいきいきと輝き、京都の大きな力となることを目指し、学生に強く焦点を当て、魅力と個性あふれる「世界に誇る『大学のまち』『学生のまち』」の実現を目指した取組を推進してきました。

計画の最重点ポイントとして、「学びの環境の充実」「大学の国際化」「学生のまち」「産学公地域連携」の4つの柱を立て、54施策(うち19施策が重点施策)を推進しました。「学びの環境の充実」では、京都の大学において学部などの新設やキャンパス・大学施設の整備拡充が進むほか、



キャンパスプラザ京都

市外からの大学の新規進出や、市外に転出した学部の市内回帰の動きが見られる中、京都市では、京都の景観やまちづくりに配慮するなどの良好な大学施設の整備に対しては、都市計画上の規制などの弾力的な運用や京都市の市有地の活用などを行い、大学施設の展開・立地を支援してきました。

また、「大学の国際化」においては、海外での「京都の大学紹介セミナー」の開催や「京都留学サイト」の開設により留学生誘致に取り組むとともに、京都地域活性化につながる海外留学を支援する「海外留学派遣プログラム開発支援事業」などの実施により日本人学生の海外留学を支援する仕組みが整ってきました。「学生のまち」の取組としては、キャンパスプラザ京都に設置した学生の活動拠点「学生 Place⁺」や学生・地域連携ネットワーク「むすぶネット」など、学生の活動を支援し、地域と結びつける仕組みづくりが進展してきました。「産学公地域連携」では、数多くの産学連携の取組や魅力ある地域づくりや地域の課題解決に向けて大学・学生が協働で取り組む「学まちコラボ事業(大学地域連携創造・支援事業)」などの地学連携の取組が展開されてきました。

(3) 大学コンソーシアム京都の取組

大学コンソーシアム京都は、大学、行政のみならず経済団体も含んだコンソーシアムとして、大学間連携による先駆的な取組を推進し、今日まで、その事業内容・規模ともに全国の大学コンソーシアムの牽引役を果たしてきました。

具体的には、大学間連携のスケールメリットとコーディネート機能をいかして多彩な科目を提供する単位互換事業、幅広い企業・行政機関・非営利組織の参画により実体験と教育を融合したプログラムを提供するインターンシップ事業、生涯学習事業である「京カレッジ」など、社会的要請の高い教育プログラムの開発と推進を行ってきました。また、未来の京都づくりに向けた政策を創造するための調査・研究などを目的とした「未来の京都創造研究事業」などの都市政策研究推進事業、毎年10月に平安神宮・岡崎公園一帯で開催される「京都学生祭典本祭」に代表される学生交流事業、京都の大学と学びの魅力を高校生や保護者に紹介する「京都の大学『学び』フォーラム」の開催などの高大連携事業、さらには大学教職員向けのフォーラムやセミナー・研修などを行うFD・SD事業、海外の大学コンソーシアムとの協定締結による教職員・学生の双方向の交流などの国際連携事業など、多角的な事業を推進しています。

大学コンソーシアム京都では、本計画と同じく平成26(2014)年度から平成30(2018)年度までを期間とする「第4ステージプラン」を策定し、その中で今後5年間に果たす役割を次のように示しています。

- ① 京都地域における大学間連携事業の推進
- ② 加盟大学・短期大学の教育の質向上の追及支援
- ③ 「大学都市」京都、地域の発展と活性化への貢献

このような役割を果たすために、今後も学生の「学びと成長」に質的な深みや多様性をもたらすことを使命として、質の向上を基本とした事業の選択と集中を図り、学びのための多様なコンテンツや資源を擁する京都の特色をいかした各事業を推進することとしています。

2 計画策定の趣旨

京都が「大学のまち」「学生のまち」として先進的な取組を展開し、魅力と個性を高めてきた一方で、今後、18歳人口の更なる減少や大学進学率の伸びの鈍化による受験生及び大学入学者の減少、また、大学や企業を取り巻くグローバル競争の拡大など、大学・学生を取り巻く状況は更に大きく、激しく変化することが予想されます。

世界中から多様な人財が集い、羽ばたく拠点となる「大学のまち」「学生のまち」として京都が更に発展していくためには、京都市としても、大学コンソーシアム京都との連携を一層強化し、産業界や地域と一体となって、大学・学生の集積を核とした大胆な政策を展開することが求められています。

本計画「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画 2014-2018」は、社会状況の変化や国の動向、「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」の成果を踏まえつつ、今後5年間で取り組むべき施策をとりまとめ、京都市と大学コンソーシアム京都が協働で策定したものです。

※本計画においては、「人は宝である」という考え方にに基づき、固有名詞などを除いて「人材」ではなく「人財」と表記しています。

市民の皆様、特に学生を中心とした若者にも本計画に親しみを持っていただけるよう、市民の皆様から募集した愛称案に基づき、本計画の愛称を「大学・まち・学生 むすぶプラン」としました。

3 計画の位置づけ

都市理念(都市の理想像)

世界文化自由都市宣言

<市会の賛同を得て昭和53(1978)年10月15日宣言>

都市は、理想を必要とする。その理想が世界の現状の正しい認識と自己の伝統の深い省察の上に立ち、市民がその実現に努力するならば、その都市は世界史に大きな役割を果たすであろう。われわれは、ここにわが京都を世界文化自由都市と宣言する。

世界文化自由都市とは、全世界のひとびとが、人種、宗教、社会体制の相違を超えて、平和のうちに、ここに自由につどい、自由な文化交流を行う都市をいうのである。

京都は、古い文化遺産と美しい自然景観を保持してきた千年の都であるが、今日においては、ただ過去の栄光のみを誇り、孤立して生きるべきではない。広く世界と文化的に交わることによって、優れた文化を創造し続ける永久に新しい文化都市でなければならない。われわれは、京都を世界文化交流の中心にすべきである。

もとより、理想の宣言はやさしく、その実行はむずかしい。われわれ市民は、ここに高い理想に向かって進み出ることを静かに決意して、これを誓うものである。

市政の基本方針

京都市基本構想(グランドビジョン)

21世紀の京都のまちづくりの方針を理念的に示す長期構想
<平成13(2001)～37(2025)年>

基本計画

京都市基本計画

基本構想の具体化のために全市的観点から取り組む主要な政策を示す計画

第1期

<平成13(2001)～22(2010)年>

第2期

はばたけ未来へ! 京プラン

<平成23(2011)～32(2020)年度>

各区基本計画

基本構想に基づく各区の個性をいかした魅力ある地域づくりの指針となる計画

第1期

<平成13(2001)～22(2010)年>

第2期

<平成23(2011)～32(2020)年度>

分野別計画

大学のまち京都・学生のまち京都推進計画 2014-2018

<平成26(2014)～30(2018)年度>

4 計画の推進に向けて

(1) 計画推進組織

本計画の実施主体である京都市、大学コンソーシアム京都の他、大学、学生、経済界、NPO、市民などで構成する「大学のまち京都・学生のまち京都推進会議」において、計画の進行管理を行います。

本計画の推進に当たっては、各事業単位で毎年度実施する京都市事務事業評価の結果などを踏まえ、計画の進捗状況を点検するとともに、外部の視点を取り入れ、PDCA (Plan-Do-Check-Action) のサイクルを構築し、毎年チェックを行います。また、中間時点において総括を行い、新規事業の検討や成果があがらない取組の改善などを行います。

(2) 計画推進期間

本計画は、近年の大学・学生を取り巻く急激かつ大きな状況変化のスピードを勘案し、柔軟な対応を図っていくため、平成26(2014)年度を初年度に、平成30(2018)年度を目標とした5年間の計画とします。

第2編 大学・学生を取り巻く状況と課題

1 大学・学生を取り巻く状況

(1) 18歳人口の減少と学生獲得競争の激化

全国的な動向をみると、今後、18歳人口は更に減少するという推計が示されています(国立社会保障・人口問題研究所)。また昨今、教育費負担の重さなどを嫌い、地元大学への進学傾向が強まり、地方から都市部へ進学する学生の減少、有力私立大学による地方出身学生の囲い込みなど、学生の争奪戦が激化しています。

一方、各大学における入試方法の多様化が進み、従来型の学力試験を課さないAO入試や推薦入試による入学者も拡大しています。しかし、それらの入試が学生確保のための方法として普及した側面もあり、入学者の学力水準低下も懸念されています。

(2) 大学・学生数の推移

全国の大学・短期大学数は減少傾向にあり、特に短期大学の減少が顕著です。一方、学生数は、年度ごとの増減はあるものの、概ね横ばいの傾向を示しています。

京都市内においても、短期大学から四年制大学への移行などが進みましたが、大学・短期大学合計の総数は横ばい、学生数もほぼ横ばいとなっています。

(3) 大学運営(ガバナンス)改革への取組

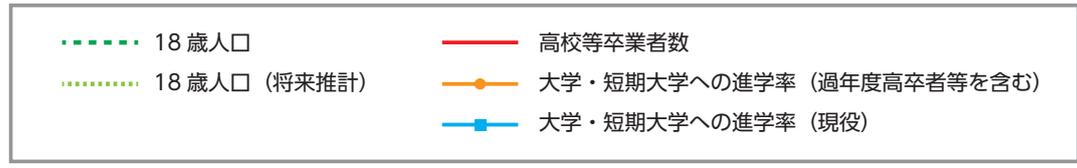
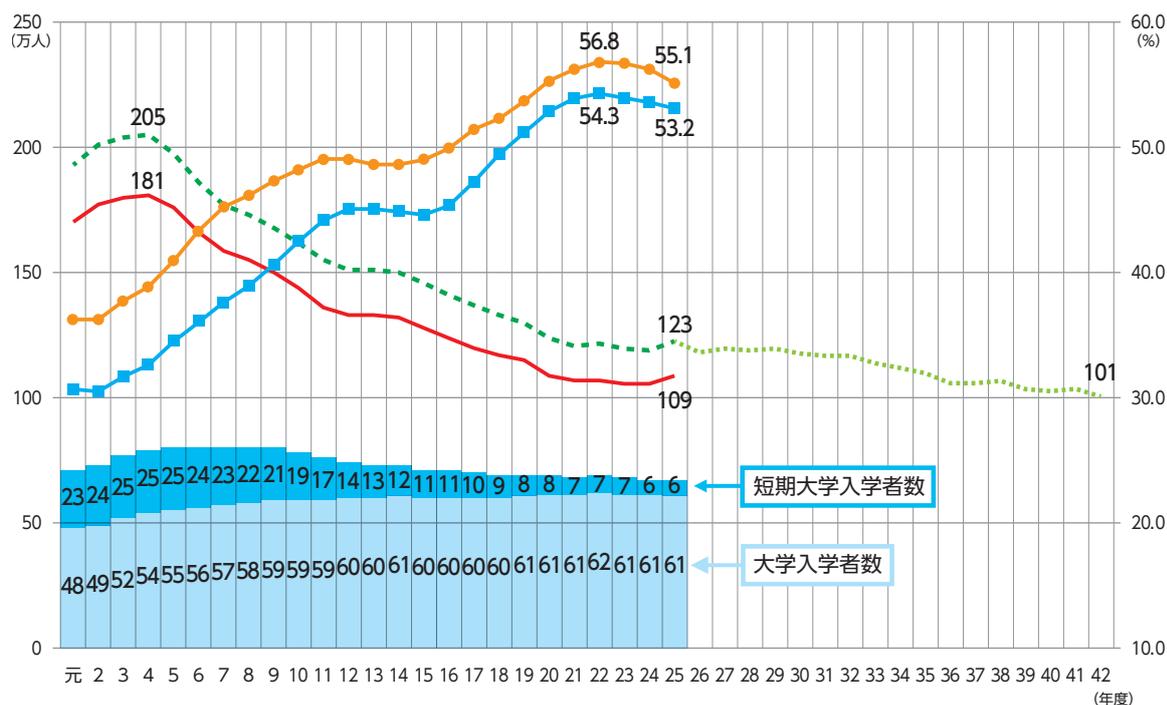
文部科学省では、魅力ある大学づくりに向けた組織改編を機動的に行うことができるよう、学位の種類や分野を変更しない学部・学科は、原則、届出による設置が可能なように制度を改めるとともに、国立大学については、所在地の近い大学や教員養成系など同分野の大学のグループ化や教育内容が重なる学部の統合なども可能にするなど改革を推進しています。

一方、大学を巡る厳しい経営環境が続く中、平成16(2004)年度から義務づけられている第三者評価に加え、透明性を高めて経営の健全化を促すとともに、受験生の学校選びに役立てるためとして、経営情報開示など私学会計基準の抜本的な見直しの方針を示しています。また、私立大学の教育研究に必要な経費に対する補助(私学助成)について地域との連携や地域貢献を指標に加えようとする動きもあります。

(4) グローバルな社会動向への対応

大学によるグローバル人財の育成や企業における海外人財採用の円滑化に向けた動きなど、社会のグローバル化がますます進展する中、大学における「学び」の仕組みも大きな変化への対応が求められています。また、PBL(課題解決型学習)など教室内にとどまらない学びの場づくりが重要視されつつあるほか、MOOC(大学講義の無料ネット配信)のように、大学のあり方そのものを問い直すような試みも現れています。

■ 全国の18歳人口、大学・短期大学入学者数などの推移



※進学率(過年度高卒者等を含む) = 18歳人口に占める大学・短期大学入学者の割合
 ※進学率(現役) = 高校等卒業者に占める大学・短期大学進学者の割合
 出典：文部科学省「学校基本調査」、国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口

■ 大学・短期大学の学校数と学生数の推移

		21年度 (2009)	22年度 (2010)	23年度 (2011)	24年度 (2012)	25年度 (2013)
全 国	大学・短大数	1,179	1,173	1,167	1,155	1,141
	学生数	3,006,884	3,042,687	3,043,496	3,018,104	3,007,132
京都市内	大学・短大数	37	37	38	38	37
	学生数	139,237	140,016	139,270	139,499	146,528
全国に 占める 京都市 の割合	大学・短大数	3.1%	3.2%	3.3%	3.3%	3.2%
	学生数	4.6%	4.6%	4.6%	4.6%	4.9%

※京都市内の大学・短期大学数は市内に本部が所在する大学・短期大学の数。
 学生数は市内に学部・学科・研究科が所在する大学・短期大学の学生数。
 学生数には学部のほか大学院、専攻科及び別科の学生並びに科目等履修生などを含む。
 25年度の京都市内の大学・短期大学数には、京都市立看護短期大学の閉校を反映している。
 出典：文部科学省「学校基本調査」(各年度5月1日現在)

2 今後の課題

(1) 学生の学びを支える環境づくりの充実

18歳人口が減少し、学生の大学選択も厳しさを増す中、本市が「大学のまち京都・学生のまち京都」であり続け、さらに全国に先駆けた大学教育・研究を進めていくためには、山紫水明の自然や悠久の歴史文化、多様な大学の集積という特長を効果的に活用し、学生に選ばれるまちであり続けることが必要です。

このため、大学間連携による成果を更に魅力あるものとするための取組、あるいは市内各大学による新学部設置やキャンパス整備の取組など、大学の個性化、学びの環境の向上に向けた各大学、学生、そして大学間連携による主体的な活動を促進・支援する仕組みの充実が求められます。

また、意欲と能力のある学生が経済的理由により修学を断念することなく安心して学べる環境づくりが求められる中、国においては、奨学金事業の充実が図られています。

さらに、昨今の自然災害や犯罪に対する社会的な不安の高まりに対し、安心・安全な学生・研究生活の確保が重要となっています。

(2) 大学・学生の国際化を促進する仕組みの充実

グローバル化がますます進展する中、わが国、そして京都が世界で存在感を維持し、高めていくため、大学には、国際社会で活躍できる人財の育成、そして海外からの優秀な学生や研究者の受入れなど、双方向の人的交流を強化していくことが求められています。OECDの調査によると、平成23(2011)年の学生に占める留学生の割合は、加盟国平均の6.9%に対して日本は3.6%となっており(出典：OECD Education at a Glance 2013)、さらなる大学・学生の国際化が必要となっています。

留学生の受入れを推進することにより、地域の活性化への貢献、企業の人材確保や国際競争力の向上などの効果があると考えられます。また、市民レベルにおいても海外からの研究者や留学生との多文化交流を通じて相互理解を深められることに加え、将来的には留学生が母国と京都とをつなぐ架け橋となることも期待されます。

本市を訪れている留学生は、平成19(2007)年の4,513人から5年後の平成24(2012)年には6,445人へと約2,000人(約40%)増加しました。今後、平成29年度までに留学生1万人という目標の実現に向け、留学前に「大学のまち京都」の魅力を知ってもらうところから、留学中の学びや研究活動を豊かにする住まいや生活の支援、卒業後の進路や社会進出の支援まで、総合的で一貫した誘致・支援の仕組みを一層充実させていくことが必要です。

また、日本人学生の海外留学に関しては、経済的負担、学事暦のミスマッチ、就職活動への影響、語学力不足などにより、全国的に海外へ留学する大学生が減少しています。国際的な視野を持った人財を育成するためには、海外へ留学する学生の経済的負担の軽減、大学の規模などにかかわらず留学のチャンスを得られる仕組みづくりや学生の視野や意識を海外に向かわせる環境づくりが求められています。

■ 留学生数の推移

	19年度 (2007)	20年度 (2008)	21年度 (2009)	22年度 (2010)	23年度 (2011)	24年度 (2012)
全国	118,498	123,829	132,720	141,774	138,075	137,756
京都市内	4,513	4,688	5,065	5,592	5,852	6,445
全国に 占める 京都市 の割合	3.8%	3.8%	3.8%	3.9%	4.2%	4.7%

※京都市内は、市内に本部が所在する大学・短期大学・大学院の留学生数。

出典：独立行政法人日本学生支援機構統計、京都地域留学生交流推進協議会調査(各年度5月1日現在)。

(3) 学生の進路・就業への対応

昨今の厳しい経済状況を反映し、就職率は平成20(2008)年度以降、2年連続して下落しましたが、平成25(2013)年3月の大学卒業者の就職率は67.3%、短期大学卒業者の就職率は73.5%へと、3年連続して改善しました。

しかし、依然として厳しい状況は継続しており、さらに、国境を越えた人財獲得が日本企業にも広がり、日本人学生の就職活動もグローバル競争の時代を迎えています。また、大学卒業後、就職も進学もしない、いわゆるニートの増加や、本人が望まない非正規雇用などで就職せざるを得ない状況も改善すべき課題となっています。こうした状況を踏まえ、大学と企業、行政機関などが連携し、オール京都で学生の就業力を高める取組が求められています。

一方、「京都企業・就業情報データベース」などにより、市内中小企業の情報発信力は高まっていますが、学生への浸透状況の現状把握とともに、京都の大学で学び、「京都で活躍したい」という思いを持つ学生や卒業した若者と京都企業を結びつける仕組みや機会の充実が、企業と学生・大学の双方から期待されています。

■ 大学・短期大学卒業者の就職率

		23年3月卒 (2011)	24年3月卒 (2012)	25年3月卒 (2013)
全国	大学	61.6% (91.0%)	63.9% (93.6%)	67.3% (93.9%)
	短期大学	68.2% (84.1%)	70.8% (89.5%)	73.5% (94.7%)
京都府	大学・短大	60.4% (87.8%)	61.9% (87.8%)	65.1% (90.1%)

※就職率=就職者数÷卒業生数。()内は就職者数÷就職希望者数。

出典：文部科学省「学校基本調査」、文部科学省・厚生労働省「大学等卒業者の就職状況調査」

(4) 大学と産業・地域との連携の強化

本市に立地する大学は、伝統産業から先端技術・ベンチャー企業まで、ものづくりを中心として京都産業を支え、創造する役割を歴史的に担ってきました。近年では知恵産業融合センターや京都産学公連携機構の取組を通じた文理融合の産学連携の取組も進展。商業や観光の活性化にも大学の関与が大きくなっています。

また、大学ごとの特長をいかし、教育、文化、福祉、コミュニティなど、多様な分野でまちの課題解決にも貢献してきました。これらの取組は大学による地域貢献という側面とともに、体験型学習やフィールドワークが学生の成長につながることから、双方にメリットをもたらしています。

文部科学省が、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を支援する「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」を進めるなど、大学を地域再生の中核に位置づけた取組への期待が高まる中、本市においては、大学と地域との連携を円滑にコーディネートする機能を強化していくとともに、今後さらに、研究者や学生・ゼミ・学生組織と企業・地域の連携を深化させ、新たな時代において常に新しい都市モデルを研究・提案し続けられる産学公地域の関係を構築していくことが必要です。

(5) 学生の主体的活動の促進

京都は、まちそのものが学生の学びのフィールドとしての役割を担い、このまちで生活することが学生の成長を支えてきました。また、「京都学生祭典」をはじめ、学生が主体的に活躍する機会も広がりを見せるなど、学生の存在はまちに活力をもたらし、本市は「大学のまち」であると同時に、まさに「学生のまち」であることを象徴しており、更に発展させていく必要があります。

一方、大学進学の地元志向に伴う下宿生比率の低下など、本市における学生の過ごし方や京都で過ごす時間が変化し、地域と学生の関わり方も変化してきました。

今後はこうした変化に対応しつつ、学生の社会貢献意識の高まりなどを踏まえ、個人でも、また団体や組織単位でも、学生が大学の枠を越え、主体的な活動ができる環境と、その活動を支える仕組みを充実させていくことが求められています。

(6) 「大学のまち京都・学生のまち京都」の発信力の強化

本市のように、まとまったエリアにこれだけの数の大学・研究者が集積し、多くの学生が学ぶ都市は他にありません。また、京都における大学の連携主体である大学コンソーシアム京都は名実ともに全国トップレベルの活動を推進し、単位互換制度やインターンシップなどの取組はここ京都から始まり、全国に展開していきました。

こうしてみると、京都はまさに「大学のまち・学生のまち」ですが、その都市イメージは、大学関係者など以外には、実態に比べて認識されていないのが現状です。大学による地域貢献・地域連携の取組も、その価値や意義に比べ、十分に浸透しているとはいえません。

このため、「大学のまち京都・学生のまち京都」としての個性や魅力を再認識し、情報を届けたい対象、例えば将来の大学生となる小中学・高校生、その保護者や教員、研究者、海外の学生や研究者、そして市民などに対し、それぞれのニーズを踏まえ、効果的に情報発信やPRを実施していくことが重要な課題となっています。

第3編 目指すべきビジョン

世界に誇る「大学のまち」「学生のまち」

～世界の学生・研究者から選ばれる都市を実現～

京都にとって、大学、そして学生は、文化、教育、経済はもちろん、都市格（都市ブランド）の形成やまちの活力の維持・発展など、まちづくりの多様な側面においてなくてはならない存在であり、最も重要な主体のひとつです。

しかし、大学・学生を取り巻く世界的な情勢の変化や競争の激化は、これまでになく大きく、急激なものとなっています。大学はその存在意義や生き残りをかけた個性化や教育環境づくりに懸命な取組を進めています。

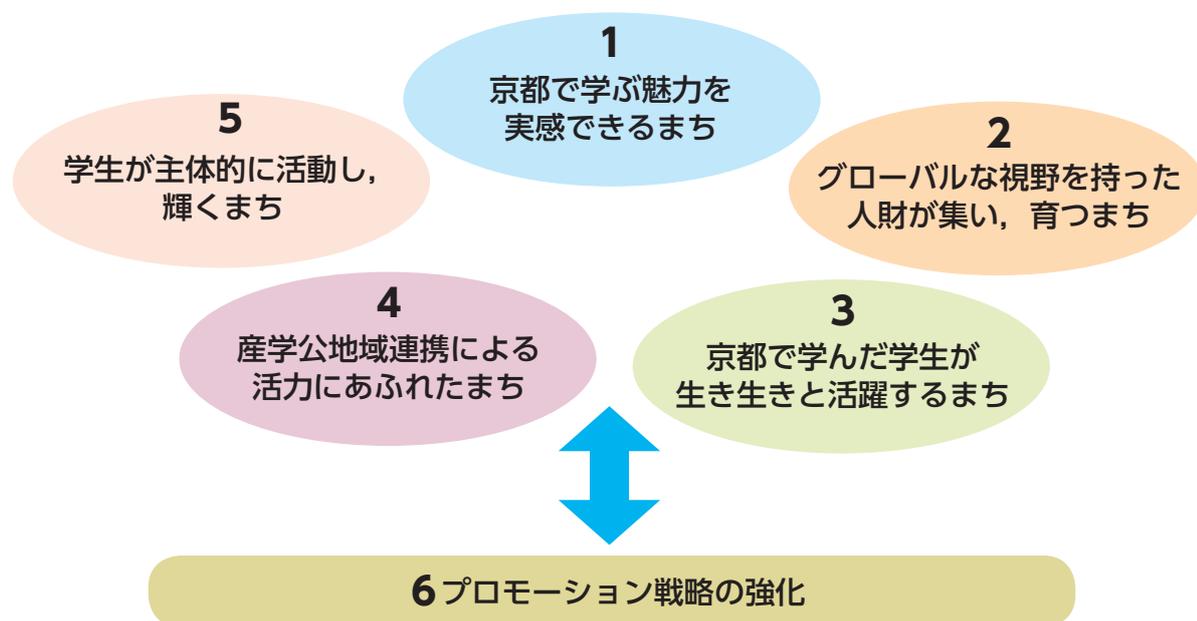
大学・学生と市民とのパートナーシップによって都市の魅力や個性を高めてきた本市においても、こうした大学の努力が実を結ぶよう、「大学のまち」「学生のまち」としての特性を更に高めていく必要があります。

また、学生が主体的に活動し、学生ならではの柔軟な発想と行動力を存分に発揮して京都のまちの新たな魅力を創造していくことに加え、市民の皆さんが、共に京都に暮らす一員として学生を温かく迎え、見守り、育て、交流し、学生の力を地域の活性化につなげていこうという意識を共有することも大切です。

この計画において私たちが目指す「世界に誇る『大学のまち』『学生のまち』」とは、京都にしかないオリジナリティ豊かな学びと研究の場にあふれ、多様な学生・研究者が集い、羽ばたく拠点となるまちです。

集積された大学の知や学生の力が新たな文化・産業などの創造と地域の活性化につながり、個性・魅力・活力にあふれ、世界の学生・研究者から選ばれるまちを目指します。

■ 目指すべきビジョンの具体的なイメージ



第4編 施策の推進

第4編では、第3編で示したビジョンの実現に向け、**6本の柱**ごとに、今後5年間で推進していく施策を記載しています。

- ① 学生が学ぶ環境の充実
- ② 大学・学生の国際化の促進
- ③ 学生の進路・社会進出の支援
- ④ 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化
- ⑤ 学生が持つエネルギーをいかした京都力の強化
- ⑥ プロモーション戦略の強化

柱ごとの記載項目位置づけ

まちの将来像

本計画のビジョン「世界に誇る『大学のまち』『学生のまち』」の具体的なイメージを、施策推進の柱ごとに示しています。

※「6 プロモーション戦略の強化」については、他の5本の柱と位置付けが異なり、本計画全体の推進と関連する項目であるため、「方針」として記載しています。

リーディング施策

本計画に基づき推進する施策の中で、特に重点的に取り組むべき施策を具体的に示しています。

推進施策

本計画に基づき推進する施策を示しています。

○ 実施主体

各施策の主な実体を、京都市は「**京都市**」、
大学コンソーシアム京都は「**コンソシアム**」と記載しています。

○ 新規施策

本計画に新たに盛り込んだ施策には「**新規**」と記載しています。

1 学生が学ぶ環境の充実

まちの将来像

京都で学ぶ魅力を実感できるまち

山紫水明の落ち着いた自然，千年を超える歴史，そこから生まれた文化芸術，伝統と進取の気風が融合する産業，そして個性にあふれた多様な大学の集積のもと，わが国の大学教育・研究をリードし，大学間連携の蓄積に培われた学びの機会と，安心して安全な学び・暮らしの環境を提供するまちを目指します。

施策項目

リーディング施策

- (1) 「量から質へ」単位互換科目の魅力の向上 コンソーシアム
- (2) 「景観と機能の調和」大学施設整備の支援 京都市

推進施策

- (1) 「安心して安全に学べる京都」の充実 京都市
- (2) 学生が京都とふれあい，協働する環境づくり 京都市 コンソーシアム
- (3) 大学経営・運営の支援 京都市 コンソーシアム
- (4) 多様な大学・学生活動拠点の活用・設置の促進 京都市

リーディング施策

(1) 「量から質へ」単位互換科目の魅力の向上 新規

大学コンソーシアム京都において，全国に先駆けて平成6（1994）年から始まった大学間連携による単位互換制度^{注1}は，他の追随を許さない規模で展開してきました。一方，規模の拡大に伴い特色が薄れ，加盟大学における単位取得の厳格化などにより，学生が他大学の講義を受けにくい状況も出てきています。

このため，単位互換科目の内容・数ともに精査を図り，改めて「大学のまち京都」ならではの学生にとって魅力のある単位互換制度の再構築を図ります。

また，各科目を学生が評価し，改善するための仕組みの導入について検討します。



単位互換科目講義

主な具体的取組

- ア) 京都だからこそ提供できる特色ある単位互換科目の開発
- イ) 加盟大学による、より特色のある魅力的な単位互換科目の提供
- ウ) 単位互換科目受講後の評価システムの検討
- エ) 学生などの評価に基づく単位互換科目の改善の仕組みづくり

(2) 「景観と機能の調和」大学施設整備の支援

京都市では、京都のまちの優れた景観の形成と、各大学の個性を生かした施設(機能)整備をともに促進するため、地区計画^{注2}などの弾力性を持った制度を効果的に運用しています。その効果を最大限に発揮するため、大学施設の整備をワンストップで支援する窓口を設置し、技術的な助言を行うとともに、施設整備に必要な各種手続が円滑に進むよう、関係者と調整するなど、積極的な支援を展開しています。

こうした取組の中で、各大学の施設整備が活発に行われ、大学の市内回帰も進んでいます。今後も、市有地の活用や民有地情報の提供なども含め、これまで以上に、大学施設の展開・立地の推進を総合的に支援していきます。

主な具体的取組

- ア) 市有地活用や民有地情報の提供による大学施設の展開・立地の推進
- イ) ワンストップ窓口として、施設構想の段階から整備終了までの一貫した迅速な支援
- ウ) 大学による各種手続が更に円滑に進むよう、施設整備に関する法令の概要や制度の運用方針などを取りまとめた「京都市大学施設整備支援・誘導のためのガイドプラン」の改訂

推進施策**(1) 「安心して安全に学べる京都」の充実**① **学生の安心・安全に対する意識を高めるための啓発** **新規**

災害時の対応や犯罪などに巻き込まれないための知識を学生が身に付けられるよう、防災・防犯などに関する注意点などを総合的に記載したハンドブックを作成し、インターネットなどを通じて周知します。

② **災害時における学生の安全の向上と学生の力を活用した支援活動の展開** **新規**

大規模災害時の学生の安全確保、学生の力を活用した支援活動の促進を図るため、「京都市事業所帰宅困難者対策指針」に基づき、各大学における大規模災害に備えた安全対策や非常用物資備蓄などの推進、学生ボランティアによる発災時の帰宅困難者などの支援の促進に取り組みます。

③ 学生が犯罪・交通被害・消費者トラブルに遭わない環境づくり **新規**

京都府警、府内の大学、京都府、京都市などによる「京都府大学安全・安心推進協議会」での事業を中心に関係機関が連携して、学生の防犯意識や規範意識を向上させる取組や、大学周辺、通学路などの防犯、交通安全環境を向上させるため、防犯カメラ、街路灯、駐輪場などの整備を促進する取組を強化します。

また、大学などと連携して消費者トラブルの未然防止に努めるとともに、学生が消費生活に関する情報を容易に入手できる環境づくりを進め、消費者被害の防止に必要な知識の習得を中心とした学習機会の提供に努めます。

④ 障害のある学生など多くの方が学ぶことのできる環境づくり **新規**

障害の有無や年齢に関わらず最大限多くの方が活動できる大学の環境を実現するため、「みやこユニバーサルデザインアドバイザー」の派遣をはじめとした環境整備の支援を行います。また、単独で外出が困難な障害のある学生への移動支援事業による通学支援に取り組めます。

(2) 学生が京都とふれあい、協働する環境づくり

① 学生が京都の魅力にふれる機会の充実

全国の大学生が京都学生祭典本祭の日の前後に無料で京都の文化施設に入場できる「Student Days」の充実や、大学コンソーシアム京都加盟校の学生がスマートフォンなどから登録することにより、市内の文化施設に優待料金で入場できる「京都市キャンパス文化パートナーズ制度」の対象施設拡大と文化芸術情報の配信などにより、学生が京都の文化などを体験できる機会を拡充します。

② 学生の意見吸収システムの構築 **新規**

スマートフォンなどの情報端末を活用した学生アンケートの実施など、「大学のまち京都・学生のまち京都」としての評価や学びの環境に対する学生の意向・ニーズを把握する仕組みを構築します。

③ 学生が地域の一員として暮らせる環境づくり **新規**

学生が居住地において地域とのつながりを持てるよう、学生に対して、京都における自治会・町内会などの地域コミュニティの果たす役割や活動などに関する情報を発信するとともに、自治会・町内会などに対しても、学生を地域の一員として積極的に迎え入れるよう、啓発などの取組を進めます。

(3) 大学経営・運営の支援

① 京都FD^{注3}・SD^{注4}プログラムの充実

大学(及び教員・職員)が集積する特色をいかし、教員と職員が共通して受講するプログラムなど、教育・研究と大学運営の効果的な連携・協働を支援する、大学コンソーシアム京都におけるFD・SDプログラムを充実させます。



FDフォーラム

② 大学への寄付の増進

京都市が条例で指定する大学へ寄付することで、個人市民税が控除される制度について、大学及び市民に対する広報・啓発の充実と指定大学の拡大により、大学への寄付を増進します。

③ 環境配慮型経営に取り組む大学への支援

大学による省エネルギーの取組や自立分散型の再生可能エネルギー設備^{注5}の導入など、持続可能な低炭素・エネルギー社会の実現に寄与する取組を積極的に進める大学を支援し、環境に配慮した大学としての価値の向上につなげます。

(4) 多様な大学・学生活動拠点の活用・設置の促進

① キャンパスプラザ京都の利用促進

キャンパスプラザ京都に対する認知度の向上と一層の利用促進を図るため、市民や学生、研究者に対して積極的に広報します。

② 大学サテライトなどの設置支援

京都らしい大学サテライトキャンパス^{注6}やまちなかキャンパスの設置を促進するため、京町家や近代建築に対する建築基準法の適用除外制度などの活用を支援します。

注1 単位互換制度

…他大学が開講する科目を履修し、修得した単位が所属大学の単位として認定される制度。大学が、単位互換包括協定を締結し、科目を提供。

注2 地区計画

…住民の生活に身近な地区を単位として、道路、公園などの施設配置や建築物などに関する事項について、地区特性に応じてきめ細かなルールを定めるもの。

注3 F D

…Faculty Development の略。教員の教育力向上と大学の組織的教育改善の取組。

注4 S D

…Staff Development の略。職員の職能開発。

注5 自立分散型の再生可能エネルギー設備

…原子力発電などの大規模集中型電源への依存度を減らすために京都市が普及に取り組んでいる、都市内・近郊にある小型の発電所や一般の建物に設置された太陽光などの再生可能エネルギーを活用した発電設備。

注6 サテライトキャンパス

…大学などの本部から地理的に離れた場所に設置されたキャンパス。

2 大学・学生の国際化の促進

まちの将来像

グローバルな視野を持った人財が集い、育つまち

世界中の学生・研究者が集い、訪れた学生・研究者が優れた教育研究環境のもと切磋琢磨し、地域とのふれあいや多文化交流を通じて充実した大学・研究生活を過ごすことで、京都を愛し、将来にわたって京都で、そして世界と京都を結んで活躍する人財が育つまちを目指します。

また、海外からの留学生・研究者との交流や海外留学などを通じて、このまちで学ぶ学生が、グローバルな視野を持った人財として育つまちを目指します。

施策項目

リーディング施策

- (1) 「京都を知ろう」留学生誘致に向けた海外への広報 **京都市** **コンソーシアム**
- (2) 「京都に触れよう」大学のまち京都の魅力を体感できる短期留学受入の実施 **京都市** **コンソーシアム**
- (3) 「世界を見よう」京都で学ぶ学生の海外留学派遣の強化 **京都市** **コンソーシアム**

推進施策

- (1) 留学生支援機能の強化 **京都市**
- (2) 留学生などに住み良いまちづくり **京都市** **コンソーシアム**
- (3) 留学生の進路・社会進出の支援 **京都市** **コンソーシアム**
- (4) 大学職員の国際化の支援 **コンソーシアム**
- (5) 海外との学術教育研究の交流促進 **京都市** **コンソーシアム**

リーディング施策

(1) 「京都を知ろう」留学生誘致に向けた海外への広報

京都市では、平成29(2017)年度までに市内の留学生数を1万人に増やすことを目標に、各大学と共に留学生の誘致に取り組んでいます。

世界中の若者に「京都の大学に行きたい」「京都で学生生活を送りたい」という思いを持っていただき、京都の大学への留学を促進するため、京都の大学で学んでいる学生が、日ごろ感じている学生生活やまちの魅力を学生ならではの視点で世界中に発信します。

また、今後留学生の増加が見込める東南アジアなどを主なターゲットに、「大学のまち京都」の魅力発信を強化します。

主な具体的取組

- ア) 京都で学ぶ留学生ならではの視点で「大学のまち京都」の魅力を伝え、留学生誘致につなげるPR映像の制作・発信
- イ) 東南アジアも視野に入れた「京都の大学紹介セミナー」の開催
- ウ) 「京都留学サイト」(4言語)の運営
- エ) 市の友好交流都市(姉妹都市, パートナーシティ)や関係機関などとの連携による情報発信

(2) 「京都に触れよう」大学のまち京都の魅力を体感できる短期留学受入の実施 新規

日本への留学に関心のある海外の学生に京都へ来てもらい、京都の奥深く多彩な魅力を体感してもらうことにより、長期的な留学生の誘致につなげるための新たな取組として、各大学の協力により、京都ならではの短期留学受入プログラムを開発・実施します。また、これにより京都ファンの拡大も図っていきます。

主な具体的取組

- ア) 大学コンソーシアム京都加盟校の特色ある講義と、伝統文化(禅, 生け花, お茶など)、伝統産業, 先端産業などの京都体験とを組み合わせた短期留学受入プログラムの開発・実施
- イ) 大学コンソーシアム京都が連携している海外の大学コンソーシアムや海外の大学の日本研究センターなどを通じた短期留学受入プログラムの広報

(3) 「世界を見よう」京都で学ぶ学生の海外留学派遣の強化

京都で学ぶ学生の海外留学を支援するため、平成22(2010)年度から、大学コンソーシアム京都において、ボストン市(アメリカ), ビクトリア州(オーストラリア)の協定大学コンソーシアムと連携し、単位互換事業を活用した留学プログラムを実施しています。また、京都市においては、平成25(2013)年度から、大学の海外留学派遣プログラムの開発支援制度を開始しました。

今後もグローバルな視野を持って活躍できる学生を京都から育てていくため、京都で学ぶ学生の海外留学の機会づくりを支援していきます。

主な具体的取組

- ア) 大学コンソーシアム京都における海外の協定大学コンソーシアムとの連携による留学プログラムの実施
- イ) 「海外留学派遣プログラム開発支援事業」の実施
- ウ) 大学の留学プログラム実施に係る支援策の検討

推進施策

(1) 留学生支援機能の強化

京都を留学先として選択するための情報提供、京都で留学生活を送る際の相談・支援体制、そして卒業後の進路支援までの総合的な支援機能を強化します。

また、「京都留学サイト」と京都で学ぶ留学生向けに生活支援情報を発信している「京都留学生情報サイト」を統合し、留学前から卒業までの情報を段階的に、わかりやすく発信します。

(2) 留学生などに住み良いまちづくり

① 住宅関連企業による留学生向け住宅斡旋の促進 **新規**

「外国人のためのお部屋情報 HOUSE navi」^{注7}をはじめとするウェブサイトなどにより、日本独特の商慣行（敷金・礼金など）を省略した民間住宅や留学前に海外から住宅情報の取得や手続きができる事業者の取組の紹介を促進します。

② 留学生向け住宅の提供支援 **新規**

民間住宅・市営住宅の空き家を活用し、単身留学生向けの安価な住宅を提供する仕組みを大学と連携して実施するとともに、世帯留学生向けの市営住宅の提供を拡大します。

また、大学による留学生寮などの設置について、土地の紹介や土地利用に関する相談を通じて支援します。

③ 留学生などの生活支援

留学生や海外からの研究者及びその家族からの相談に応える体制を充実するとともに、地域社会で共に暮らしていくための習慣やルールを伝えるオリエンテーションを実施し、また「京都市生活ガイド」^{注8}の配布など各種支援制度に関する広報・情報提供を強化します。

留学生の生活を応援する市民団体や関連組織との情報交換・共同事業を通じて、関係機関のネットワークを強化します。

④ 留学生の交流機会の充実 **新規**

留学生同士、そして留学生と日本人学生などの交流機会の充実を図るため、「外国人留学生交流等促進補助事業」^{注9}の実施や京都学生祭典への留学生の参画を進めます。

また、フェイスブックにおいて開設した「京都留学生同窓会」^{注10}などにより、留学生やOB・OGへの情報提供に努めます。

⑤ 京都を好きになってもらう取組の充実

文化施設の見学などを優待する「留学生おこしやすPASS」^{注11}の発行や伝統文化や生活文化に親しむことができる留学生向けプログラムの充実など、市民とのふれあいを通じて留学生が京都あるいは日本の文化を理解し、愛着を持ってもらうための取組を充実します。



留学生優待プログラム

(3) 留学生の進路・社会進出の支援

国際交流会館などにおける留学生向けのキャリアガイダンスやジョブフェアの開催に加えて、ウェブサイト「World Stage」^{注12}や「京都市留学生いきいき人材バンク(kokoka 留学生ねっと)」^{注13}において就職やインターンシップに関する情報を提供するなど、京都府の「京都ジョブパーク・留学生コーナー(海外人材ジョブカフェ)」^{注14}と連携し、京都で学んだ留学生と企業とのマッチング機会の充実に努めます。



ジョブフェア

また、企業に対して、留学生を採用するために必要な手続きや知識の習得を支援するなど、企業の国際化を促進し、留学生が就職しやすい環境づくりを進めます。

さらに、企業と留学生などとの協働により海外のニーズを把握するなど、海外展開を目指す企業にとってのメリットと留学生などの学びを両立させ、企業と留学生を結びつける取組を実施します。

(4) 大学職員の国際化の支援 新規

大学の国際化を支える大学職員の国際化を促進するため、大学コンソーシアム京都において、留学生の受入や京都で学ぶ学生の海外留学派遣のノウハウを含めた国際化のためのSDプログラムを企画・実施します。

(5) 海外との学術教育研究の交流促進 新規

京都市と海外の都市において、民間レベルでの「文化・芸術」、「学術研究・教育」、「経済」など特定分野の交流促進を目的とする「パートナーシティ」提携を進める中で、海外の大学・学生や大学間連携組織と市内の大学・学生や大学コンソーシアム京都との連携・交流を促進します。

注7 外国人のためのお部屋情報 HOUSE navi

…公益財団法人京都市国際交流協会と公益財団法人日本賃貸住宅管理協会京都府支部が共同で運営する、外国人のための物件検索サイト。英語、中国語、韓国・朝鮮語でも利用が可能。

注8 京都市生活ガイド

…初めて京都で生活する外国人が安心して暮らせるように、生活上の留意点を説明した冊子。英語、中国語、韓国・朝鮮語及びスペイン語版があり、各々日本語を併記。

注9 外国人留学生交流等促進補助事業

…留学生と地域の交流を促進し、応援するため、留学生を含む市民団体などが主体となって行う留学生との交流事業に対する補助制度。

注10 京都留学生同窓会

…京都で学ぶ留学生やOB・OGの交流の場として、平成25(2013)年8月に開設したフェイスブックページ。

注 11 留学生おこしやす PASS

…一定期間、京都市内の文化施設などの入場が無料となるパスポート。京都市が発行。

注 12 World Stage

…留学生向け就職情報サイト。

注 13 京都市留学生いきいき人材バンク (kokoka 留学生ねっと)

…企業でのインターンシップや地域活動など、留学生の就職や社会参加につなげるため、「自らの力を発揮したい留学生の情報」と「仕事や社会活動等において留学生の力を活かしたい企業、学校、地域等の情報」の交換を行うウェブサイト。

注 14 京都ジョブパーク・留学生コーナー (海外人材ジョブカフェ)

…府内大学で学ぶ留学生などの京都企業への就職支援と、留学生の雇用を検討している京都企業を支援するための就職・雇用相談を実施。

3 学生の進路・社会進出の支援

まちの将来像

京都で学んだ学生が生き生きと活躍するまち

キャリア教育や企業との出会い・交流を通じて卒業後の進路を自ら選択し、目標に向かって努力し、社会で生き生きと活躍できるよう、しっかりとした職業観や自立意識を持った学生を育むまちを目指します。

また、京都企業や地域で活躍できる仕組みをつくることにより、京都を愛する学生が活躍するチャンスにあふれたまちを目指します。

施策項目

リーディング施策

- (1) 「未来の京都を担う」京都企業と連携した人財育成 **京都市**
- (2) 「京都で働く」京都企業と学生のマッチングの促進 **京都市**

推進施策

- (1) 大学卒業後の多様な選択肢を描ける人財育成の推進 **京都市** **コンソーシアム**
- (2) ニーズに対応した就業マッチングの促進 **京都市**
- (3) 進路カバーアップの推進 **京都市**

リーディング施策

(1) 「未来の京都を担う」京都企業と連携した人財育成 **新規**

グローバルな視点と地域(ローカル)の発展を支える情熱を併せ持った「グローバル人財」を育成するとともに、留学生を含む学生が京都の企業を知り、京都の企業が学生を知る機会をつくるため、大学や国籍の垣根を越えた多様な学生がチームを編成し、京都企業と連携したプロジェクト(学生から企業への提案、企業の提示する課題の解決など)に取り組みます。

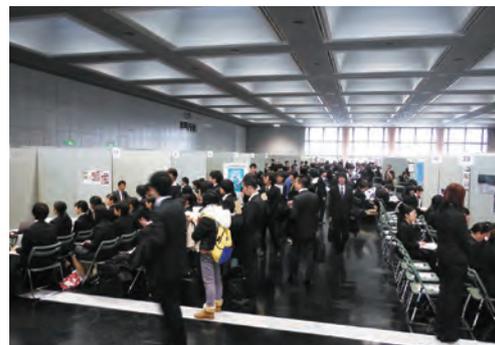
主な具体的取組

- ア) 京都で学ぶ学生や留学生からなる学生チームと京都企業との連携プロジェクトの実施
- イ) プロジェクトを通じた、留学生を含む学生の職業観の育成と京都企業への就職の意識づけ

(2) 「京都で働く」京都企業と学生のマッチングの促進 **新規**

京都市には、グローバルに活躍する大手企業から、高度な技術力を有する中小製造業やベンチャー企業、伝統的な技術・ブランドを継承する伝統産業、国際観光文化都市を支える観光関連産業や商業など、多様な産業が集積しています。

学生が京都企業についての情報を的確に取得し、京都への人財の定着につながるよう、府内の協議会組織「京都府中小企業人材確保・定着支援事業協議会」^{注15}と連携し、オール京都で学生の京都企業への就職を促進します。



合同企業説明会

主な具体的取組

- ア) 「京都企業・就業情報データベースシステム（京のまち企業訪問）」^{注16}の充実（掲載企業の増加など）
- イ) 「京都企業・就業情報データベースシステム（京のまち企業訪問）」掲載企業による合同企業説明会の実施

推進施策

(1) 大学卒業後の多様な選択肢を描ける人財育成の推進

① 京都市フルカバースタudent等就職支援事業^{注17}の推進 **新規**

就職活動をスタートする大学生や既卒者に対して、社会人としてのマインドの醸成や就職に関する相談、キャリア形成などのサポート、京都企業の訪問などを行う「京都市フルカバースタudent等就職支援事業」に取り組みます。



京都市フルカバースタudent等就職支援事業

② 段階的に職業観を育むキャリア教育の推進 **新規**

小学生から高校生を対象に、それぞれのライフステージに応じて段階的な職業観を育むキャリア教育を促進するため、「スチューデントシティ学習」（小学生対象）、「ファイナンスパーク学習」、「生き方探究・チャレンジ体験推進事業」（中学生など対象）を実施し、高校では、小学校・中学校段階からの継続性の中で、生徒が自己の在り方・生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、特に「総合的な学習の時間」を中心に、系統立てた学習活動に取り組みます。

③ 大学コンソーシアム京都インターンシップの充実 **新規**

留学生向けのインターンシップや行政における長期メニューの検討など、目的の明確化と魅力の向上による大学コンソーシアム京都のインターンシップ制度の再構築を図ります。

④ 学生のベンチャー・ソーシャルビジネスマインドの育成 **新規**

社会進出のひとつの道として、また就職しても新しいことに挑戦する意欲を持ち続けられるよう、京都高度技術研究所におけるセミナーの開催などにより大学や産業界と連携したベンチャーマインドや社会貢献型の社会的起業マインドの啓発・育成を促進します。

また、京都市ソーシャルビジネス支援事業を推進します。



インターンシップ

(2) ニーズに対応した就業マッチングの促進 **新規**

短期大学や芸術系大学、留学生などのニーズに対して、雇用の意思やニーズのある企業とのマッチング機会の充実・強化を図るため、芸術系大学や女子大学、短期大学などを対象とした「京のまち企業訪問」出張企業説明会を開催します。

(3) 進路カバーアップの推進 **新規**

卒業間近で就職先が決まっていない学生や卒業後の就職希望者に対し、カウンセリングやセミナー、マッチング機会の提供、資格取得や就業体験機会の提供を実施し、求職者の早期就職につなげていきます。

注 15 京都府中小企業人材確保・定着支援事業協議会

…平成 24 (2012)年 5 月発足。人材確保・定着支援を促進する仕組みづくりのため、大学や学生、企業などのニーズや課題に応じて情報収集・提供・発信・共有を行い、オール京都体制で企画の運営や事業連携を推進。

【構成機関・団体】

…京都労働局・京都府・京都市・京都府商工会議所連合会・京都府商工会連合会・京都経営者協会・社団法人 京都経済同友会・公益社団法人 京都工業会・京都中小企業家同友会・京都府中小企業団体中央会・大学コンソーシアム京都・近畿経済産業局(オブザーバー)

注 16 京都企業・就業情報データベースシステム(京のまち企業訪問)

…就業情報や市内中小企業の魅力ある情報を発信するウェブサイト。2,800以上の企業情報を掲載(平成 26(2014)年 2 月現在)。

注 17 京都市フルカバー学生等就職支援事業

…就職活動をスタートする大学生、既卒者(卒業後 3 年以内)を対象とした、京都市から事業受託した京都経営者協会が運営する事業。社会人に必要なマインドを醸成する集中セミナー、就職に関する相談などにより個々のキャリア形成などをサポート。

4 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化

まちの将来像

産学公地域連携による活力にあふれたまち

大学が有する人財や研究開発力・研究成果が、京都の多様な産業や地域コミュニティと協働・融合し、伝統産業や伝統文化など京都の誇る個性を継承・発展させるとともに、世界で最先端の産業や文化を創造し続け、社会問題の解決や地域活性化などの課題に対して、常に日本で最先端の取組モデルを展開し続けるまちを目指します。

施策項目

リーディング施策

- (1) 「京都発イノベーション」大学との連携によるものづくり技術の継承・発展 京都市
- (2) 「飛び出す大学」大学と地域の連携・コーディネートの一環の充実 京都市 コンソーシアム

推進施策

- (1) 産学公の連携による京都経済の活性化 京都市
- (2) 教育・研究分野の新展開を目指す大学との連携強化 京都市
- (3) 地学公の連携による地域課題への対応 京都市 コンソーシアム
- (4) 小中高大(院)連携の推進 京都市 コンソーシアム
- (5) 大学をいかした芸術文化環境の向上 京都市 コンソーシアム

リーディング施策

(1) 「京都発イノベーション」大学との連携によるものづくり技術の継承・発展

京都の産業、特にものづくりは、伝統的な産業から最先端の高度な研究開発まで、大学や大学研究者などの知的資源・ノウハウとの連携・協働によって発展してきました。

今後この関係を更に発展させていくため、産学共同研究プロジェクトにより最先端の技術シーズを産業化し、京都市の産業競争力の確保と新規事業創出の拠点となる「京都市成長産業創造センター」^{注18}における取組を推進します。



京都市成長産業創造センター

また、京都市産業技術研究所における伝統産業技術者研修など、大学が有する知的ノウハウをいかし、技術継承や職人技術の保全・継承など、伝統産業の維持・継承を図ります。

主な具体的取組

- ア) 「京都市成長産業創造センター」における産学共同研究プロジェクトの推進
- イ) 「研究成果展開事業（スーパークラスタープログラム）」^{注19} や「地域イノベーション戦略支援プログラム」^{注20} における産学連携による環境分野の研究開発及び事業化の推進
- ウ) 京都産学公共同研究拠点「知恵の輪」^{注21} における地域の大学との共同研究推進

(2) 「飛び出す大学」大学と地域の連携・コーディネートの仕組みの充実

京都市では、まち全体がキャンパスとしての役割を果たし、京都のまちで生活する学生の成長をまちぐるみで支えてきました。また、地域に対して、大学は、その教育・研究成果の蓄積や学生の活力による地域の課題解決、活性化に一定の役割を果たしてきました。今後とも、京都市と大学の連携事業や、地域と大学・学生の連携・協働をコーディネートする事業を推進します。

また、平成25（2013）年度から文部科学省が地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的として「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」^{注22} を実施するなど、社会の期待や要請に大学が応える仕組みも整ってきています。このように、大学が地域に果たす役割が増している中、大学と地域双方の連携や協働を進めるための支援やコーディネートの仕組みを更に充実していきます。



学まちコラボ事業「公開プレゼンテーション」

主な具体的取組

- ア) 京都市の部局や区役所と大学との協定締結による連携事業の推進
- イ) 地域による主体的なまちづくりを支援する「区民提案・共汗型まちづくり支援事業予算」における大学・学生枠の設置などによる事業の推進
- ウ) 地域活性化や課題解決に向けた大学と地域の一体的な取組を支援し、学生の学びの機会を創出する「学まちコラボ事業」の推進
- エ) 京都の大学に設置された社会連携センター、地域連携センターなどのネットワークづくり、大学と地域とを繋ぐマッチング・コーディネートの仕組みづくり
- オ) 文部科学省「地（知）の拠点整備事業」採択校との連携と、今後申請する大学への助言・提案など支援の推進

推進施策

(1) 産学公の連携による京都経済の活性化

① 産学公連携コーディネート機能の向上

大学研究者の研究内容、大学が有する特許をはじめとした知的財産などの大学シーズの活用事例や連携事例などの情報発信の充実などにより産学公の各機関が情報を共有し、連携・協働による取組を進めていくため、そのコーディネートの役割を担う「京都産学公連携機構」^{注23}や京都市産業技術研究所の活動を強化していきます。

② 文系学部と企業の連携強化 **新規**

京都の総合力を発揮して新事業・新産業の創出を図るため、文理融合分野・文系分野において産学公連携を促進する「文理融合・文系産学連携促進事業」を推進します。

また、観光人財の育成など、大学と関連産業界の連携によって、京都市の産業戦略と連携・協調した専門人財の育成に努めます。

③ 大学をいかした国内外コンベンションの誘致支援

京都市が展開するコンベンション誘致支援の仕組みをいかし、研究者の人的ネットワークや所属学会を通じた国際会議・学会の誘致を支援します。

④ 国内外の高度人材との交流の推進による新たな価値の創造の促進 **新規**

国内外の優れた研究者や芸術家などの多彩な高度人材を呼び込み、京都の研究者や学生、企業人との高密度の知のネットワークを構築することによりイノベーションを創出し、新たな価値を生み出す「京都・高度人材交流拠点(仮称)」の設置を検討します。

(2) 教育・研究分野の新展開を目指す大学との連携強化 **新規**

大学の教育・研究分野の新展開に関する情報を早い段階から共有し、京都市の施策との連携促進につながるようコーディネート機能を強化します。

(3) 地学公の連携による地域課題への対応

① 地域の問題解決につながる都市政策研究の推進

「大学のまち京都」が有する知の集積を活用し、未来の京都づくりに向けた政策を創造するための調査・研究を行うとともに、若手研究者などの発掘・育成とネットワーク形成を図る「未来の京都創造研究事業」を実施します。

② 地学公連携の市民への周知 **新規**

市民の「大学があってよかった、学生がいてよかった」という意識を醸成するため、大学の地域貢献や地域と大学との協働による事業を紹介する「地学連携ウェブサイト」を充実させます。

(4) 小中高大(院)連携の推進

① 高大連携の強化

高校と大学がともに学び合い、育ち合う関係の構築に向け、共同授業や出張授業の充実など、大学コンソーシアム京都における京都高大連携研究協議会を中心とした高校と大学の連携を強化します。

また、高校・大学のニーズの把握に努め、高校生や保護者に京都の大学の学びを紹介する「京都の大学『学び』フォーラム」^{注24}の充実と、企画への高校関係者の参画を促進します。



京都の大学「学び」フォーラム

② 市立小中学校・高校と大学の連携強化

市立小中学校・高校教員の教育技術の向上や新しい専門情報の取得に向け、市立小中学校・高校と大学の共同研究、教員養成のための研修の充実を促進します。

また、高校の授業の支援と大学生の現場体験機会の拡充に向け、大学生に対する参加意識の啓発や「学校サポート事業」^{注25}などによる学生ボランティアの小中学校・高校への派遣を促進します。



学校サポート事業

③ 産学公連携による京都市らしい教育システムの構築

産学公とメディアで構成し、次世代の教育のあり方や人財育成の方向性を検討する「京都教育懇話会」^{注26}活動を推進し、京都発の先進的な次世代教育の研究や取組を発信します。

また、産学公や市民ぐるみで子どものものづくり体験機会の充実に取り組む「京都子どもモノづくり事業」^{注27}を推進します。

(5) 大学をいかした芸術文化環境の向上

① 芸術系大学の集積をいかした芸術文化力の向上 **新規**

地下鉄駅への学生の芸術作品の展示など、芸術系大学の共同による学生作品の展示や市民が作品にふれる機会づくりを促進します。



地下鉄駅構内への作品展示

② 歴史・文化の蓄積をいかした社会人向け学習機会の提供

ブランド性の高い既存プログラムの拡充や大学間連携のメリットをいかした科目の開発、市民が参加しやすい日時^{みやこ}の開催など、「大学のまち京都」ならではの生涯学習プログラムとして実施している「京カレッジ」の更なる魅力の向上を図ります。

③ 文化芸術教育プログラムの推進 **新規**

芸術系5大学と小中学校、行政で構成する「京都芸術教育コンソーシアム (Art-e Kyoto)」^{注28}を中心として、市内の小中学校における美術教育の充実を図り、文化・芸術的素養を持った子どもを育成するとともに、フォーラムの開催などにより芸術教育の取組を広く紹介します。また、芸術系大学と市内の小中学校との間での、音楽・芸術活動の体験・発表の場づくりを進めます。

④ 若手芸術家・クリエイターの育成 **新規**

京都在住芸術家を支援する「東山アーティスト・プレイスメント・サービス (HAPS)」^{注29}、京都芸術センターにおける若手芸術家の総合的支援、「京都版トキワ荘プロジェクト」^{注30}などを推進し、伝統芸術から映画やマンガなど新しいコンテンツを含め、次代の京都の文化・芸術の振興を担い、新たな京都文化を生み出す若手芸術家・クリエイターを育成します。

注18 京都市成長産業創造センター

…大学・研究機関、企業などの産学公が連携し、化学分野における最先端の大学の研究成果を実用化につなげる研究プロジェクトを推進することにより、付加価値の高い高機能性化学品の創出を通して、産業競争力の確保・新規事業の創出を図る研究開発拠点。

注19 研究成果展開事業(スーパークラスタープログラム)

…各地域で取り組まれてきた地域科学技術振興施策の研究成果をいかしつつ、国際競争力の高い広域連携による「スーパークラスター」を形成することを目的とする事業。京都地域は、省エネ効果のあるSiCデバイスの社会実装普及などを目指した「クリーン低環境負荷社会を実現する高効率エネルギー利用システムの構築」をオール京都で提案し、平成25(2013)年10月4日に本事業の中核をなすコアクラスターに採択。

注20 地域イノベーション戦略支援プログラム

…地域が主体的に実施する産学公連携によるイノベーション創出のためのシステム整備を図ることを目的としたプログラム。京都地域は、エネルギーを「蓄える」「創る」「うまく使う」の観点から世界のエネルギー問題に貢献する研究開発の支援などを目的とした「京都次世代エネルギーシステム創造戦略」をオール京都体制で提案し、平成25(2013)年7月1日に採択。9月1日から事業開始。

注21 京都産学公共同研究拠点「知恵の輪」

…独立行政法人科学技術振興機構から高度研究機器(無償貸与)の配備を受け、桂イノベーションパーク及び京都リサーチパークにおいて、京都大学などのバックアップを得ながら、先端光加工プロジェクトとバイオ計測プロジェクトを推進し、機器の共用による共同研究の促進や高度技術者の育成などを展開する事業。

注22 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)

…自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を支援することで、課題解決に資する様々な人財や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的とした文部科学省の事業。

注23 京都産学公連携機構

…京都における産学公のあらゆる機関が相互に情報を共有しながら、連携と協働を進めるための基盤として平成15(2003)年2月に設立。

注 24 京都の大学「学び」フォーラム

…大学コンソーシアム京都加盟校の特色ある模擬講義や体験型講座などを通じて、高校生や保護者に京都の大学の学びを紹介する高大接続のプログラム。

注 25 学校サポート事業

…市立幼稚園・学校において、学生ボランティアが、学級活動や部活動の補助など、児童・生徒に関わる学校活動を支援する事業。

注 26 京都教育懇話会

…京都の産学公とメディアで組織され、次世代の教育についてのあり方、人財育成の方向性を模索し、先進的な取組を京都から全国へ発信していくことを目的とした組織。

注 27 京都子どもモノづくり事業

…「ものづくり都市・京都」の特性をいかし、産学公連携・市民ぐるみにより、小中学生がモノづくりを学び・体験する機会を創出する取組。

注 28 京都芸術教育コンソーシアム

…市立小中学校と連携し、美術教育の充実や芸術を大切にする風土づくりに取り組むため、大学コンソーシアム京都加盟の芸術系5大学(京都市立芸術大学, 京都嵯峨芸術大学, 京都精華大学, 京都造形芸術大学, 成安造形大学)と京都市, 京都市教育委員会, 市立小中学校によって設立された組織。

注 29 東山 アーティスツ・プレイスメント・サービス(HAPS)

…京都在住の芸術家の居住・制作・発表の包括的支援や地域や国内外と芸術家のネットワーク形成など、文化芸術がポテンシャルを発揮できる環境の創造を目標とした取組。

注 30 京都版トキワ荘プロジェクト

…京町家を活用した安価なシェアハウスの提供やマンガ家向け講習会の開催など、マンガ家志望者がプロとなるきっかけを提供するコミュニティづくりの取組。

5 学生が持つエネルギーをいかした京都力の強化

まちの将来像

学生が主体的に活動し、輝くまち

このまちに住み、集う学生の主体的な活動を支援する意識や仕組みが充実し、学生の成長を地域ぐるみで応援するまちを目指します。

また、その活動が自己実現にとどまらず、未来の京都づくりにつながる人財となって、力強いエネルギーやチャレンジ精神が地域の活性化や課題解決に寄与するまちを目指します。

施策項目

リーディング施策

- (1) 「一人一人が輝く」学生の主体的活動の促進 京都市 コンソーシアム

推進施策

- (1) 学生の活動を促進する仕組みの充実 京都市
 (2) テーマごとの学生の活動の促進 京都市

リーディング施策

(1) 「一人一人が輝く」学生の主体的活動の促進

京都市では、大学政策を市政の重要な柱の一つに位置づけて以来、学生の主体的な取組を積極的に支援しています。その代表的な事業のひとつである「京都学生祭典」は、大学の枠を越えた京都の学生が1年間を通じて様々な地域交流活動を展開し、毎年10月に平安神宮・岡崎公園一帯で開催される本祭は多くの学生・市民を集める一大イベントとなっています。今後も、京都学生祭典や京都国際学生映画祭など学生が主体となって運営する活動を支援します。

また、京都のまちの活性化につながる活動や社会貢献活動を行う学生グループを総合的にサポートする「輝く学生応援プロジェクト」の充実により、「地域や社会のために活動してみたい」という学生の思いに応え、活動に結び付ける仕組みを構築するなど、学生の主体的な活動の支援を促進します。



京都学生祭典「本祭」



学生プラス「ミーティング風景」

主な具体的取組

- ア) 京都学生祭典, 京都国際学生映画祭など, 学生が主体となって運営する活動の支援
- イ) 学生や学生グループの活動を支援する「輝く学生応援プロジェクト」の充実
 - 学生 Place^{プラス}^{注31} における, 専門知識を持つコーディネーターの助言などによる学生グループの主体的な活動の支援
 - 意欲に応じて, 学生が個人単位でも社会貢献活動に参加できるようマッチングし, 活動を通じて学生の成長をサポートする取組の実施
 - 地域と学生活動をコーディネートするマッチングサイト「むすぶネット」(学生・地域連携ネットワーク)の充実

推進施策

(1) 学生の活動を促進する仕組みの充実

① 学生が活動するフィールドの拡充 **新規**

地域と大学・学生が一体となり, 学生の学びに資するとともに, まちづくりや地域の活性化につながる取組を広く募集し, 審査のうえ, 認定・支援する「学まちコラボ事業」を推進します。また, 大学の地域貢献や地域と大学との協働による事業を紹介する「地学連携ウェブサイト」を充実し, 地域が学生とともに活動するきっかけづくりや体制づくりを促進します。

② 学生の市政への参画の促進

審議会への学生の参画促進など, 市政や都市政策に若者・学生の意見を反映する機会の充実を図ります。

(2) テーマごとの学生の活動の促進

① 防災, 安心・安全の取組

防火や防災の知識・技能を身につけ, 災害対応における学生の活躍につなげることを目的とした「京都学生消防サポーター」^{注32} 制度を周知し, 参加・登録を促進します。

また, 犯罪や事故の少ないまちを実現するために, 学生防犯ボランティア「ロックモンキーズ」^{注33} など学生への支援と連携を進めます。



京都学生消防サポーター



ロックモンキーズ「防犯パトロール」

② 環境にやさしい取組

学生が無理なく実践できる環境にやさしいライフスタイルの実現のため、学生の視点で手引書を作成し、各大学のイベントでの呼びかけなどを通じ、学生のライフスタイルの転換を推進します。

また、京都学生祭典における、「DO YOU KYOTO? プロジェクト」^{注34}と連携したエコイベントの実施など、環境問題・環境対策で活躍する学生の力をまちづくりにいかすとともに、そのニーズに応じて、情報の提供など学生の主体的な活動を支援します。

③ コミュニティの活性化 **新規**

自治会などの活動の情報発信に努めるとともに、京都学生祭典実行委員会による地域の清掃・夜警活動への参加の促進など、学生の地域活動への参画を促進します。

また、地域との交流をテーマに、空き家などを学生の住居やゼミ活動の拠点として活用する大学やNPOなどの活動の支援を検討します。

注31 学生^{プラス} Place⁺

…キャンパスプラザ京都1階にある学生の活動拠点。専門知識を持つコーディネーターによる助言、ミーティングスペースの提供や備品の貸出など、学生活動を総合的に支援する「輝く学生応援プロジェクト」を実施。

注32 京都学生消防サポーター

…各種研修などを通じて防火防災の知識や技能を身に着けた学生の力を「地域の災害対応力の強化」や「防火防災の普及啓発」につなげることを目的とした取組。

注33 学生防犯ボランティア「ロックモンキーズ」

…自主防犯活動への参加を希望する大学生を対象に、京都府警察が設けた学生防犯ボランティア登録制度。

注34 DO YOU KYOTO? プロジェクト

…「DO YOU KYOTO?」は、京都議定書にちなんで、京都から世界に向けて発信する「環境にいいことしていますか?」という意味の合言葉で、「DO YOU KYOTO? デー」には京都市全域で、ライトダウンやノーマーカーデーなどの取組を実施。

6 プロモーション戦略の強化

方針

「大学のまち京都・学生のまち京都」の効果的な発信

小学校・中学校・高校の児童・生徒や教員、保護者、そして市民など、また、海外の高校生・大学生・研究者も含め、様々な主体に対して、まちの魅力と多様な大学集積を効果的にプロモーションし、日本はもちろん、世界中に「大学のまち京都・学生のまち京都」を発信します。

施策項目

リーディング施策

- (1) 「京都の大学へ行こう！」学生の力を活用した国内外への情報発信

京都市 コソシアム

- (2) 「大学のまち京都・学生のまち京都」P R戦略の構築 京都市 コソシアム

推進施策

- (1) 「大学のまち京都・学生のまち京都」の中学生・高校生などへの発信

京都市 コソシアム

- (2) 現役・OBの学生・留学生などによる京都生活の発信 京都市 コソシアム

- (3) 大学・市民向け広報の充実 京都市 コソシアム

リーディング施策

(1) 「京都の大学へ行こう！」学生の力を活用した国内外への情報発信 **新規**

人口の約1割の学生が学ぶ「学生のまち」として、学生ならではの視点から新たなアイデアや手法で「大学のまち京都・学生のまち京都」をP Rするため、学生が参画・検討する広報活動を展開します。

学生生活やまちの魅力について、京都で学ぶ学生が自ら発信することにより、世界中の若者に京都を身近に感じてもらい、京都の大学で学びたいという意欲を喚起します。

主な具体的取組

- ア) 民間旅行事業者との連携による、大学生が修学旅行生などを案内するキャンパスツアーの実施
- イ) P R戦略と連動した、学生が主体となった効果的な広報手法の検討

(2) 「大学のまち京都・学生のまち京都」PR戦略の構築 新規

京都市はまとまったエリアに多くの大学が集積し、学生が人口の約1割に達する、日本でも随一の「大学のまち・学生のまち」であり、大学コンソーシアム京都の設立やキャンパスプラザ京都の設置、京都学生祭典の開催など、全国のモデルとなる取組を進めてきました。

こうした優位性を京都市民にとどまらず、広く国内外にPRし、国内はもとより、世界から学生・研究者が集う都市を目指します。

このため、学生をはじめとする関係者に取組への評価や京都の大学へのニーズを調査し、「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力が再検証するとともに、対象に応じた戦略を定め、効果的なPRや広報活動につなげていきます。

主な具体的取組

- ア) 日本人学生や留学生などの対象ごと、関西・関西以外などの地域ごとのアンケートやヒアリングなどによる学生の意向・ニーズ調査の実施
- イ) 各大学の海外協定校や交換留学実績などの基礎データの調査・分析による海外PRに関する大学ニーズ(PRの対象国など)の把握
- ウ) 大学のまち京都・学生のまち京都推進会議のプロモーション検討専門部会(仮称・新設)での戦略的なPR手法の検討

推進施策

(1) 「大学のまち京都・学生のまち京都」の中学生・高校生などへの発信

① 中学生・高校生、保護者への広報の強化

地元志向の高まりに対応し、模擬講義や体験型講座などを通じて高校生や保護者に京都の魅力伝える「京都の大学『学び』フォーラム」など、関西から大学進学を目指す中学生・高校生やその保護者が京都を候補地として選ぶ意識を高める広報活動の充実を図ります。

また、中学生・高校生にとって憧れ・目標となるような、京都で学ぶ学生のキャンパスライフやロールモデル(行動事例)を発信します。

② 修学旅行の誘致・受入体制の充実

修学旅行で訪れた経験が、大学選択に少なくない影響を与えていることから、各大学との連携で、修学旅行における大学キャンパス見学などの情報を提供する「きょうと修学旅行ナビ」^{注35}のコンテンツの充実に取り組みます。

(2) 現役・OBの学生・留学生などによる京都生活の発信

① 京都で学ぶ大学生やOB・OGによる情報発信 新規

ブログ、フェイスブックなどを活用し、京都の大学に在籍する研究者や学生、あるいは京都の大学を卒業したOB・OGから、出身地の中学生・高校生や保護者に向けた情報発信

や相談・質問に応える仕組みづくりを進めます。

② 留学生や留学生OB・OGネットワークの活用 **新規**

海外の学生の憧れやお手本、安心材料となるような、留学生OB・OGや在学留学生の生活の様子について、フェイスブック「京都留学生同窓会」などを活用して発信します。

(3) 大学・市民向け広報の充実 **新規**

① 大学・学生向け広報の充実

京都市や大学コンソーシアム京都が実施する施策や事業をより多くの大学関係者・学生に利用してもらうため、市職員が大学へ出向いて市政に関連したテーマで講義するなど、各大学と連携しながら、多様な媒体を効果的に活用し、情報発信力を強化します。

② 市民向け広報の充実

市民に大学を知ってもらうための取組や機会の拡充を図るため、各大学における地域貢献や地域と大学との協働による事業を紹介する「地学連携ウェブサイト」の充実などを図ります。

注 35 きょうと修学旅行ナビ

…体験学習施設やモデルコース、観光地が探せるきょうとエリアマップなど、京都への修学旅行をサポートするウェブサイト。

第1編 計画策定の趣旨

第2編 大学・学生を取り巻く状況

第3編 目指すべきビジョン

第4編 施策の推進

資料編

資料編

資料編

1 京都市の大学政策に係る主な取組一覧

実施年	取組内容
昭和 60 (1985)年	大学問題対策委員会(庁内組織・都市計画局所管) [国家予算に関する要望]に[工場・大学等制限法の見直し]を加える
昭和 61 (1986)年	京都市・大学事務連絡協議会設立
平成 2 (1990)年	企画調整局新設 (活性化推進室都市政策課が大学問題担当)
平成 5 (1993)年	[大学のまち・京都 21 プラン]策定
平成 6 (1994)年	[京都・大学センター]発足
平成 7 (1995)年	[京都市大学施設整備支援・誘導制度]創設 ([大学施設整備支援窓口]開設)
平成 8 (1996)年	[京都市大学のまち交流センター]基本計画策定
平成 9 (1997)年	総合的生涯学習講座「シティーカレッジ」開設
平成 10 (1998)年	[財団法人大学コンソーシアム京都]設立
平成 12 (2000)年	[京都市大学のまち交流センター]開館 (愛称：キャンパスプラザ京都)
平成 14 (2002)年	[工場等制限法]の廃止 (近畿圏 3 府県 3 指定都市の要望)
平成 15 (2003)年	第 1 回京都学生祭典開催
平成 16 (2004)年	[大学のまち・わくわく京都推進計画]策定 大学・地域連携モデル創造・支援事業(学まちコラボ事業)開始 大学院等共同サテライトの設置
平成 19 (2007)年	[京カレッジ]開講 ([シティーカレッジ]を改編し、生涯学習を充実)
平成 21 (2009)年	[大学のまち京都・学生のまち京都推進計画]策定
平成 22 (2010)年	[輝く学生応援プロジェクト]始動(学生の活動拠点「学生 Place ⁺ 」 開設, 学生・地域連携ネットワーク「むすぶネット」運用開始) 海外における「京都の大学紹介セミナー」開始
平成 23 (2011)年	[京都留学サイト](4 言語)開設 未来の京都創造研究事業(シンクタンク事業)開始
平成 25 (2013)年	[海外留学派遣プログラム開発支援事業]開始

2 計画の策定経過

平成21(2009)年2月に策定した「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」は、大学を取り巻く周辺環境の変化のスピードを踏まえ、計画期間を5年間として取り組んできました。

この度、計画が目標とする期間を迎えることから、平成25(2013)年における国の第2期教育振興基本計画の策定、少子化の進展、大学・学生の国際的な競争の激化など、大学をめぐる大きな環境変化に対応し、「大学のまち・学生のまち」としての魅力をもっと高めていくため、新たな計画を策定することとしました。

(1) 計画策定の体制

新計画の検討は、「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」の推進に当たり、幅広く意見を求めるための組織である「大学のまち京都・学生のまち京都推進会議」において行いました。

また、推進会議のもとに、平成23(2011)年度には計画の施策評価を行う「評価専門部会」、平成24(2012)年度からは「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」の総括を行う「情勢分析専門部会」、そして平成25(2013)年度には新たな推進計画の具体的内容を検討する「計画策定専門部会」を設置し、計画案を検討しました。

(2) 検討の経過

① 大学のまち京都・学生のまち京都推進会議

- 第1回 平成25(2013)年7月5日
- 第2回 平成25(2013)年11月26日
- 第3回 平成26(2014)年2月25日

② 計画策定専門部会

- 第1回 平成25(2013)年7月18日
- 第2回 平成25(2013)年10月17日
- 第3回 平成26(2014)年2月20日

③ テーマ別計画策定専門部会

- 平成25(2013)年7月31日
テーマ1：学びの環境の充実
- 平成25(2013)年7月25日
テーマ2：大学・学生の国際化
- 平成25(2013)年7月30日
テーマ3：学生の進路・社会進出の支援
- 平成25(2013)年7月23日
テーマ4：大学が持つエネルギーによる京都力の強化
- 平成25(2013)年7月24日
テーマ5：学生が持つエネルギーによる京都力の強化
- 平成25(2013)年7月26日
テーマ6：プロモーション戦略の強化

④ 大学との意見交換会

第1回 平成25(2013)年12月11日 参加大学数 6校

第2回 平成25(2013)年12月12日 参加大学数 8校

第3回 平成25(2013)年12月13日 参加大学数 9校

※この他、11大学を個別訪問し、意見交換

⑤ 市民の皆様からの意見募集

期間：平成26(2014)年1月10日から2月10日まで

意見数：155件(93名)

(3) 委員名簿

① 大学のまち京都・学生のまち京都推進会議

(五十音順, 敬称略)

	氏名	役職等
座長	赤松 徹眞	大学コンソーシアム京都理事長(龍谷大学・短期大学部学長)
副座長	川口 清史	大学コンソーシアム京都副理事長(立命館大学学長)
委員	李 宣英	同志社大学社会学研究科博士後期課程3回生
	位高 光司	京都商工会議所産学連携・新産業推進特別委員会委員長 (日新電機株式会社顧問) ※平成25年11月6日まで
	岡野 真之	公益社団法人京都青年会議所理事長 ※平成26年1月1日から
	岡田 憲和	京都市総合企画局長
	川口 佳菜子	地域公共人材開発機構事務局
	河村 能夫	龍谷大学地域連携フェロー
	清瀬 みさを	同志社大学文学部教授
	久保 千鶴	京都市立銅駝美術工芸高等学校教頭
	蔵田 翔	市民公募委員
	桑原 毅	京都新聞社論説委員
	小寺 秀俊	大学コンソーシアム京都運営委員(京都大学理事・副学長)
	小林 育朗	公益社団法人京都青年会議所理事長 ※平成25年12月31日まで
	高田 美恵子	京都華頂大学・華頂短期大学事務局長
	辻 理	京都商工会議所産学連携・新産業推進特別委員会委員長 (サムコ株式会社代表取締役社長) ※平成25年11月7日から
	堤 大地	第11回京都学生祭典実行委員会委員長
	濱崎 加奈子	伝統文化プロデュース連代表
	深尾 昌峰	特定非営利活動法人きょうとNPOセンター常務理事
藤田 晶子	フリーエディター	
真下 仁志	市民公募委員	
真山 達志	大学コンソーシアム京都運営委員会委員長(同志社大学副学長) ※平成26年1月15日から	
見上 崇洋	大学コンソーシアム京都運営委員会委員長(立命館大学副学長) ※平成25年12月31日まで	
村上 圭子	京都市観光政策監	
森本 武	京都嵯峨芸術大学・短期大学部学長	

② 「大学のまち京都・学生のまち京都推進会議」計画策定専門部会

(敬称略)

	氏名	役職等
部会長	河村 能夫	龍谷大学地域連携フェロー
副部会長	小林 一彦	京都産業大学日本文化研究所長
委 員	真下 仁志	市民公募委員
	村澤 悟	京都薬科大学理事・事務局長
	山田 礼子	同志社大学社会学部教授 <学びの環境の充実>
	大西 有三	京都大学名誉教授 <大学・学生の国際化>
	中谷 真憲	京都産業大学法学部教授 <学生の進路・社会進出の支援>
	竹永 睦生	京都工芸繊維大学理事・副学長 <大学が持つエネルギーによる京都力の強化>
	深尾 昌峰	特定非営利活動法人きょうとNPOセンター常務理事 <学生が持つエネルギーによる京都力の強化>
	岡本 直輝	立命館大学スポーツ健康科学部教授 <プロモーション戦略の強化>
	徳永 寿老	大学コンソーシアム京都事務局長
	古瀬 ゆかり	京都市総合企画局市民協働政策推進室大学政策担当部長
オ ブ ザ ー バ ー	樫本 善規	大学コンソーシアム京都副事務局長
	山本 美奈	大学コンソーシアム京都総務・広報部次長
	竹内 俊雄	京都市総合企画局市民協働政策推進室大学政策課長
	阪本 健	京都市総合企画局市民協働政策推進室大学企画係長
	行元 沙弥	NPO法人グローバル人材開発センター事務局

※ は、テーマごとの専門委員(< >は担当テーマ)

3 大学コンソーシアム京都

大学、地域社会及び産業界の協力による大学教育改善のための調査研究、情報発信交流、社会人教育に関する企画調整事業等を行い、これらを通じて大学と地域社会及び産業界との連携を深めるとともに大学相互の結びつきを深め、教育研究の更なる向上とその成果の地域社会、産業界への還元を図り、わが国の学術研究と高等教育の発展に寄与することを目的として、平成10(1998)年3月に設立認可された組織。

平成22(2010)年、公益財団法人へ移行。

■ 加盟団体／平成26(2014)年3月現在

大学・短期大学	50大学・短期大学
地方公共団体	京都市, 京都府
経済団体	京都商工会議所 一般社団法人 京都経済同友会 京都経営者協会 公益社団法人 京都工業会

■ 法人の概要

理事長	赤松 徹眞
基本財産	1億円(うち京都市出えん額5千万円, 出えん率 50.0%)

■ 事業の概要

事業部名	主 な 事 業
教育事業部	単位互換事業, 生涯学習事業, キャンパスプラザ京都管理運営など
高大連携事業部	京都の大学「学び」フォーラム, インターンシップ事業など
高等教育研究推進事業部	FD・SD事業, 国際連携事業, 都市政策研究推進事業など
学生交流事業部	京都学生祭典, 京都国際学生映画祭など
総務・広報部	全国大学コンソーシアム協議会事務局運営など

■ 所在地など

所在地	京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町939 キャンパスプラザ京都内
電話	075-353-9100
FAX	075-353-9101
URL	http://www.consortium.or.jp/
フェイスブック	https://www.facebook.com/consortium.kyoto

4 京都市大学のまち交流センター（キャンパスプラザ京都）

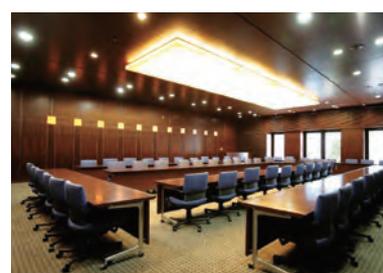
大学における学術研究の成果その他の知的資産を活用することにより、豊かな地域社会の形成に資するため、大学相互の間及び大学と産業界、地域社会などの間の連携及び交流を促進する活動その他の活動の用に供するために京都市が設置した施設。公益財団法人大学コンソーシアム京都の活動拠点になっている。

■ 施設の概要

所在地	京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町939
面積など	敷地面積 2,632.71㎡ 延床面積 11,677.47㎡ 鉄筋コンクリート造 地下1階地上6階
開館日	平成12(2000)年9月8日
総事業費	約100億円
開所時間	午前9時から午後9時30分
休館日	月曜日 12月28日から1月4日まで
電話	075-353-9111(予約専用)
FAX	075-353-9121
URL	http://www.consortium.or.jp/

■ 館内施設概要

6階	第1～8講習室
5階	第1講義室, 第1～4演習室, 共同研究室
4階	第2～4講義室
3階	放送大学京都学習センター
2階	第1～3会議室, ホール, 和室
1階	学生 Place ⁺ , 大学コンソーシアム京都事務室, 喫茶店
地階	駐車場



第1会議室



第1講義室

5 大学一覧

■ 大学コンソーシアム京都加盟校

平成26(2014)年3月現在

		大学 (38)	短期大学 (14)
市内	国立 (3)	① 京都大学 ② 京都教育大学 ③ 京都工芸繊維大学 (3)	
	公立 (3)	④ 京都市立芸術大学 ⑤ 京都府立大学 ⑥ 京都府立医科大学 (3)	
	私立 (32)	⑦ 大谷大学 ⑨ 京都外国語大学 ⑪ 京都華頂大学 ⑬ 京都看護大学(26年4月開校・加盟予定) ⑭ 京都光華女子大学 ⑯ 京都嵯峨芸術大学 ⑰ 京都産業大学 ⑱ 京都女子大学 ⑲ 京都精華大学 ⑳ 京都造形芸術大学 ㉑ 京都橘大学 ㉒ 京都ノートルダム女子大学 ㉓ 京都薬科大学 ㉔ 種智院大学 ㉕ 同志社大学 ㉖ 花園大学 ㉗ 佛教大学 ㉘ 平安女学院大学 ㉙ 立命館大学 ㉚ 龍谷大学 ㉛ 京都情報大学院大学(26年4月加盟予定)	⑧ 大谷大学短期大学部 ⑩ 京都外国語短期大学 ⑫ 華頂短期大学 ⑮ 京都光華女子大学短期大学部 ⑲ 京都嵯峨芸術大学短期大学部 ㉔ 京都女子大学短期大学部 ⑳ 平安女学院大学短期大学部 ㉚ 龍谷大学短期大学部 ㉛ 池坊短期大学 ㉜ 京都経済短期大学 ㉝ 京都聖母女学院短期大学 (11)
市外 (14)	③⑨ 京都医療科学大学[南丹市] ④⑩ 京都学園大学[亀岡市] ⑤⑪ 京都美術工芸大学[南丹市] ⑥⑫ 京都文教大学[宇治市] ⑦⑬ 成安造形大学[大津市] ⑧⑭ 成美大学[福知山市] ⑩⑮ 同志社女子大学[京田辺市] ⑪⑯ 明治国際医療大学[南丹市] ⑫⑰ 大阪医科大学[高槻市] ⑬⑱ 大阪成蹊大学芸術学部[大阪市] ⑭⑲ 放送大学・京都学習センター (11)	⑬⑯ 京都文教短期大学[宇治市] ⑮⑰ 成美大学短期大学部[福知山市] ⑰⑲ 京都西山短期大学[長岡京市] (3)	

大学の本部の所在地により、市内又は市外を分類しています。

6 大学マップ



※番号は、大学一覧の大学のキャンパスの概ねの位置を示しています。

第1編 計画策定の趣旨

第2編 大学・学生を取り巻く状況

第3編 目指すべきビジョン

第4編 施策の推進

資料編



大学のまち京都・学生のまち京都推進計画 2014-2018

平成 26 (2014) 年 3 月

京都市 総合企画局 市民協働政策推進室 大学政策担当
TEL 075-222-3103
FAX 075-213-0443

京都市 大学政策

検索

<http://www.city.kyoto.lg.jp/menu3/category/50-4-0-0-0-0-0-0-0.html>

京都市の環境マスコット エコちゃん

表紙写真：京都市大学のまち交流センター（キャンパスプラザ京都）

京都市印刷物第 2 5 3 2 3 1 号